

地下水汚染訴訟と除去方法の開発

◆米国化学会社デュポンとケマーズが地下水汚染訴訟で和解金765億円支払い

2017年2月、デュポンとケマーズ（15年にデュポンから分離・独立した高機能化学会社）は、デュポンの工場から河川に流出した化学物質により健康被害を受けたとする3,550件の訴訟で、合計6億7,070万ドル（約765億円）の支払いで和解したと発表した。

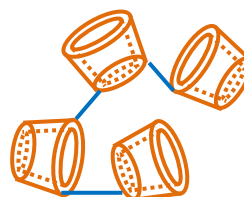
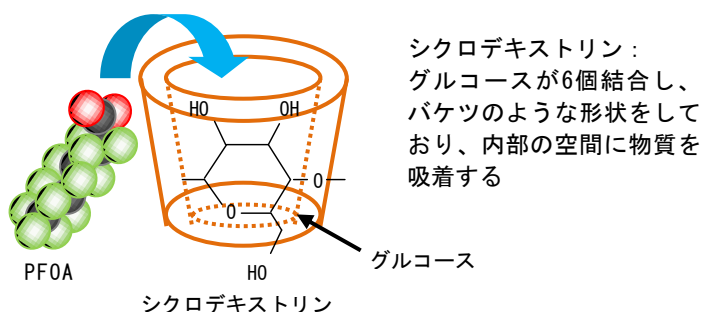
この訴訟は、ウェストバージニア州のデュポンの工場から流出した化学物質ペルフルオロオクタン酸（PFOA）が飲料水に混入し、ウェストバージニア州とオハイオ州の住民が精巣がんになるなどの健康被害を受けたというものである。PFOAはフライパンや鍋の焦げ付き防止加工などに使われるフッ素樹脂「テフロン」の製造過程で使われていた。デュポンは10年前にPFOAの使用をやめていたとして因果関係を認めていなかった。

PFOAについては、16年10月にREACH規則の制限対象物質リスト（付属書 XVII）に使用制限を追加する規制案が、欧州連合より世界貿易機関（WTO）に提出されている。

◆飲料水中のPFOAを吸着除去できる技術が開発された

17年5月、米国ノースウエスタン大学の研究グループは飲料水からPFOAを除去する技術を開発したと発表した。シクロデキストリンが架橋されたポリマーネットワーク材料で、水に溶けているPFOAを93%除去することができた。従来は粒状活性炭が用いられていたが、PFOAの除去率は56%に留まっていた。また、メタノールですすぐことによって再使用することができる。

研究者らはCycloPureという会社を設立し、商業化を目指している。



【松村晴雄】